片桐石州茶書

茶湯古典叢書⑦

谷 晃・矢ヶ崎善太郎 校訂

平成二十六年 六月刊行

▼A5判・六五八頁／定価:本体一五、五〇〇円（税別）

ISBN978-4-7842-1758-8

『石州三百箇条』と称される茶書は、類似する書名で内容の異なる流布本が多く存在し、それらは石州が書き残したものをもとに弟子たちが解説をほどこした書物と考えられる。

本書は、流布本を整理し、その基本に位置すると考えられる［怡渓系］、多くの系統の中で比較的内容が豊富な［酔翁系］、そして千家の立場から『石州三百箇条』の内容について述べた異色の［不白系］の三系統からそれぞれ底本と校合本を選び翻刻・校合。

あわせて石州が直接かかわった内容を伝える史料である可能性が高く、茶室の歴史を明かすうえで重要な記述がふくまれている『大工之書』の翻刻を収録する。

■目次■

翻刻凡例
石州三百箇条（翻刻）
第一巻／第二巻
第三巻／挿図
大工之書（翻刻）
挿図
解題
谷 晃
矢ヶ崎善太郎
索引

〔組見本〕

［不白系］

千家にハ子細なし、亭主迎ニ出、中くゝりの簀戸を明て、向の石に手を向ふにして置、一礼して勝手ニ入候、上客貴人ならは、次の者か末座か手燭を持、先に立て手水等もかけ、跡よりそうり等も直し候、手燭刀掛辺、たゝき土の上見合置也、数寄屋へ持入事なし、

六　棚の事、昔ハ同し様成棚を三重釣り候、夫を利休二重になし、古織よりも上をちかへられ候、

［怡渓系］

（図①）［三重棚、かへ、かへ、かへ、九寸五分、此一重引竹の下へ見へ候様につる］

（図②）［二重棚、小棚引竹の上にもたせ候、板厚サ五分半六分にも、長九寸五分、下棚、上棚、幅八寸五分、一ツ木五分、四分、一ツリ木上下の間六寸五分、釣竹の小口下へ五分、はしはミ入］

昔ハ常の座敷なれハ、一切の道具棚に置候故、三重に釣候也、宗易より数寄屋囲出来て、茶道具の外ハのせさる故、二重にして上下同し寸法也、古織より上棚を大にいたされ、上に炭取なと置れ候、

［酔翁系］

昔ハ常の居所を囲ひ茶を立ル故、常用のため棚を三重釣、利休時代より囲数寄屋別ニ有之、置合の外むさと道具不置故、利休二重ニ被致、織部上を被遣炭斗なと置合ルため也、両人共道理有之、今時数寄や囲に棚を釣共、むさと不釣疾(とく)与道理を致合点釣ル様にとの儀也、置合ハ二重共ニも、一重を明ルコトも有、其後囲にも三重釣候人も有、釣様棚の寸法(書誤字本)なと(有之)ハ大工の書ニ有之、

○棚の上ニハ炭斗・香合・銀・羽箒・壺置・柄杓其外何ニても置合す、茶入置時ハいつも下の棚能シ、惣て銀・

思文閣出版
〒605-0089 京都市東山区元町355　tel075-751-1781／fax075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp/　E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票

冊数	冊
お名前	tel / e-mail
ご住所	〒
送本方法	□書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） □代引（書籍代十送料を現品と引き替えにお支払い）

発行：思文閣出版（京都 取引コード 3402）
片桐石州茶書　本体15,500円（税別）　ISBN978-4-7842-1758-8
本書HPのQRコード
書店番線印

御茶湯之記　予楽院近衛家熙の茶会記

茶湯古典叢書6

川崎佐知子校訂／名和修・筒井紘一・熊倉功夫監修

近衛家熙が自家に客を招いて催した茶会の晩年24年間（正徳３年[1713]～享保21年[1736]）の記録で、家熙側近の者がそのつど記し遺したものと思われる。茶会の日付と場、客人、道具、献立が漏らさず書き控えられ、308会にも及ぶ茶会が記録されている。脚注・補注・年譜のほか解説３篇、茶人・道具・献立篇の索引も併載。

【内容】御茶湯之記（翻刻）／近衛家熙について（名和修）／『御茶湯之記』にみる懐石（熊倉功夫）／近衛家熙の茶会（筒井紘一）／『御茶湯之記』の書誌および関連資料（川崎佐知子）／『御茶湯之記』関連年譜／索引（客人篇）（道具篇）（献立篇）

▶A5判・610頁／本体15,000円（税別）　ISBN978-4-7842-1756-4

茶譜［全2冊］

谷晃・矢ヶ崎善太郎校訂　　**茶湯古典叢書5**

近世茶書としては最も大部にして体系的なものの一つである茶譜（全18冊）は、利休・織部・遠州・宗和・宗旦のそれぞれの茶匠とその時代の茶の湯を、確かな情報に基づいて茶の湯の分野ごとに再編集したものである。西尾市岩瀬文庫蔵本を底本とし、現存する諸本と校合して全編活字化。挿図についても別冊の写真版で全て収録。

解題１『茶譜』研究始め（谷晃）
解題２『茶譜』の図版について（矢ヶ崎善太郎）
跋文（中村昌生）
索引（人名・茶道具用語・茶室・露地用語・一般事項）

▶A5判・総924頁／本体20,000円（税別）　ISBN978-4-7842-1528-7

金森宗和茶書

茶湯古典叢書4

谷晃校訂

「十三冊本宗和流茶湯伝書」（金沢市立図書館藤本文庫所蔵「茶道の書ホ」）を底本とし、校合には陽明文庫蔵『金森茶道故実』を用いた。他に所在判明の茶会記を収録。巻末には解題・参考文献・略年譜・金森宗和茶会記人名一覧・索引を併載。

▶A5判・490頁／本体12,500円（税別）　ISBN4-7842-0944-1

※古田織部茶書(一)(二)

茶湯古典叢書2・3

市野千鶴子校訂

利休の高弟・七哲の一人で織部流茶道の開祖である古田織部の茶道秘書を集成。一巻には「宗甫公古職へ御尋書」及び「古田織部正殿聞書」の2巻を収め、二巻には「織部百ヶ条」「織部茶会記」「数奇道次第」「古織茶湯記」「古織伝」「茶之湯六宗伝記三」の6篇を収録。

▶A5判・平均400頁／本体（一）6,200円（税別）・（二）8,200円（税別）

元伯宗旦の研究

中村静子著

「利休の孫」として知られる元伯宗旦――その生涯は病気がちで不分明な部分が多く、残された史料からは全体的な姿を解明することは難しい。徳川幕府体制が確立し、大名茶全盛を迎えた時代に、誰に仕えることなく自身の茶の湯を追求し続けた宗旦の姿を、多数の史料を丁寧に読み解くことで複眼的に究明する。

▶A5判・430頁／本体7,800円（税別）　ISBN978-4-7842-1760-1

茶の湯 恩籟抄

戸田勝久著

今日庵歴代一人ひとりについての論考「裏千家　今日庵歴代」（13篇）、茶の湯ゆかりの人物をめぐって茶の湯の精髄が語られる「茶の湯掃苔抄」（12篇）、時空を自在に行き来する「江戸東京茶の湯散歩」（深川編８篇・日本橋編16篇）の３部構成。

▶A5判・652頁／本体5,500円（税別）　ISBN978-4-7842-1751-9

藤村庸軒流茶書　顕岑院本(一)

白崎顕成著

京都の紫雲山くろ谷金戒光明寺の塔頭である顕岑院には多くの庸軒流茶書が伝えられている。本書には、その中から息子の正員が庸軒の茶話を筆記したと思われる『藤村庸軒茶談』のほか、観山によって定められた庸軒流茶道の基本となる稽古次第を中心に収める。

▶A5判・528頁／本体10,500円（税別）　ISBN978-4-7842-1624-6

茶道望月集　顕岑院本(二)

白崎顕成編

藤村庸軒（1613～99）の孫弟子、風後庵又夢久保可季による享保８年（1723）成立の茶書。風後庵又夢の師、鳩庵横井等甫から伝授された「庸軒流茶法」40巻、「七ヶ条極秘切紙」３巻の内容を盛り込み、庸軒流茶法を詳述したものである。

▶A5判・852頁／本体16,000円（税別）　ISBN978-4-7842-1667-3

茶の湯と音楽

岡本文音著

茶の湯の美的価値観や性格は、これまで形として残されたものの考証から論じられてきた。本書では形としては残されない「音楽」という視角から、その論考を試みる。室町時代後期の草創期から江戸時代初期の千利休による大成という、茶の湯が発展・拡大へと向かう時期の文献をひもとき、「音楽」をとおしてみえる茶の湯の美意識を解明。

▶A5判・376頁／本体7,800円（税別）　ISBN978-4-7842-1606-2

公家茶道の研究

谷端昭夫著

近世における「公家茶道」を取り上げ、その独自の形態、実態と特徴、茶道史における位置づけを考察し、茶が持つ文化の内実を深める。

【内容】序章 公家の茶の研究／第１章 公家茶道への序章／第２章 公家茶道への道―寛永の公家たち／第３章 公家茶道の形成／第４章 流儀化と伝授／終章 まとめにかえて／史料編「後西院御茶之湯記」

▶A5判・394頁／本体6,500円（税別）　ISBN4-7842-1265-5

西鶴の文芸と茶の湯

石塚修著

浮世草子作家の嚆矢であり江戸時代前期を代表する作家の一人、井原西鶴（1642～1693）。その文芸作品に、いかに当時の茶の湯文化が反映されていたのか、西鶴が浮世草子作家になる以前の俳諧師時代、さらに『好色一代男』から遺稿集にいたるまでの浮世草子作品をとりあげ、その影響関係を検証する。

▶A5判・316頁／本体6,000円（税別）　ISBN978-4-7842-1730-4

近代の「美術」と茶の湯

依田徹著　　**言葉と人とモノ**

明治維新で価値を落とした茶道具は、どのようにして美術作品として再評価されるようになったのか？千利休と岡倉天心に注目し、近代美術史の視点から、明治以降の茶道具の評価を捉え直す。

【内容】茶道具評価の変容／茶の湯の文化価値の創出／理論整備と作家制作／茶道具の「美術作品」化／「芸術家」利休の誕生

▶A5判・332頁／本体6,400円（税別）　ISBN978-4-7842-1693-2

復活!不昧公大圓祭

逸翁美術館編　　**小林一三が愛した大名茶人・松平不昧**

逸翁美術館展覧会図録。逸翁が敬愛した大名茶人、松平不昧。昭和29(1954)年に阪急百貨店の古美術街で開催された「不昧公大圓祭」では、松江からの出品など、不昧公の好みものや、縁の作品などが展示された。本書は、「不昧公大圓祭」で出品された作品を中心に、不昧遺愛の名品「雲州蔵帳」収載品、逸翁収集の不昧作品などをカラーで収録。

▶A4判・84頁／本体1,000円（税別）　ISBN978-4-7842-1685-7

野村得庵の文化遺産

野村美術館学芸部編

野村グループの創始者・得庵野村徳七は大実業家であると同時に、茶の湯・能楽にも打ち込んだ偉大な数寄者であった。本書は、野村得庵の文化活動に焦点を当て、各分野の第一人者が論文集の形でまとめる伝記。1951年発行の『野村得庵』全三巻以降新たに発見された史料や最新の研究動向をふまえ、新たな得庵像を提示する。図版多数。

▶A5判・506頁／本体3,000円（税別）　ISBN978-4-7842-1701-4

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年４回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。　※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。